

令和3年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（待賢幼稚園）

教育目標

「自分で考え、自分で動き、意欲をもって遊ぶ子どもの育成」

○自己を発揮する子ども　○人とつながることを喜ぶ子ども　○主体的に遊ぶ子ども

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し <ul style="list-style-type: none">・生きる力を育むことを念頭に、一人ひとりの個性や発達を大事にしながら、子どもが主体的に遊びこむ姿を目指した保育を取り組んできた。・個々の良さや集団の育ちを丁寧に見取り、必要な教育内容を考え、質の高い保育を目指した。・子どもの豊かな学びと健やかな成長のために、子どもを中心に据えた保幼小中連携、とりわけ幼小接続に向けた取組を充実・継続・発展させていくことが大事である。・これからの中の激動の時代を生き抜く子どもを育むには、自ら主体的に物事に関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育むことが重要である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none">・子ども自ら考えて行動する姿がたびたび見られ、友達にも自ら関わりつながっている様子が見受けられる。・コロナの影響は甚大であったが、その中でも創意工夫により、本園の教育目標は概ね達成されたと評価できる。・コロナ禍、人の接する機会が少なく、教職員の苦労が大変だったと察する。・のびのび走り回る子どもたちの姿を見られるこの幼稚園を大切にしていきたい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月22日	学校運営協議会理事
最終評価	令和4年3月2日	学校運営協議会理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- ・幼児が主体的に遊ぶ中で、自己発揮や自己抑制をしている姿を環境構成や支援の在り方から考え、自己発揮と自己抑制の調和のとれた折り合う心を育む。
＊安全・安心、主体性を重視した保育環境づくり
- ・週計画案と保育実践、評価の運動（PDCA）から、日々の保育の充実を図る。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- ・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」「子どもは安心して幼稚園に通っている」「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」

中間評価

各種指標結果

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- ・アンケート項目

	<p>「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」…94.7%</p> <p>「子どもは安心して幼稚園に通っている」…100%</p> <p>「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」…100%</p> <p>「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」…100%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に遊ぶ中で、自己発揮や自己抑制をしている姿を環境構成や支援の在り方から考え、自己発揮と自己抑制の調和のとれた折り合う心を育もうとする実践研究は、保育の改善や子どもの変容につながりつつある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者が目指す子ども像を見据え、願いや意図をもって環境構成したり、子どもの遊びを援助したりすることが、主体的に遊ぶ子どもや他者と折り合いをつける子どもの姿を見とる保育につながっている。この取組を続け、子どもの自己抑制の姿を見取り評価し伸ばす取組へと進化させていく。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 ・アンケート項目「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」「子どもは安心して幼稚園に通っている」「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三密を避ける」「マスク脱着」「手洗い・手指消毒の徹底」など、新型コロナ感染拡大防止対策の環境整備と子ども達への自主的行動や態度育成の指導の工夫など、命を守る取組がなされている。 ・コロナ禍様々に制限がある中、取組や活動の量ではなく質を問直し、吟味し、できることに取り組んでいて、子どもの生き生とした活動が保障されている。 ・アンケート結果からも、子ども一人一人が大切にされ、安心できる環境づくりに取り組まれた成果が表れていて、良好な園運営が営まれている。
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 ・アンケート項目 <p>「子どもは自分の思いを出しながら、友達と遊んだり生活したりしている」…100%</p> <p>「子どもは安心して幼稚園に通っている」…100%</p> <p>「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しみにしている」…100%</p> <p>「子どもは、幼稚園で身近な動植物に興味・関心をもって過ごしている」…100%</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、行事や取組の中止や変更を余儀なくされる事態にあっても、行事・取組の時期の前倒しや延期、生活発表会をオンラインで開催するなど、柔軟に、そして工夫して取り組むことができた。 ・学級閉鎖や休園になった状況にあっても、オンラインや教材配布等で幼稚園と各家庭・子どもたちとつながることができた。 ・幼児が主体的に遊ぶ中で、自己発揮や自己抑制をしている姿を環境構成や支援の在り方から考

	<p>え、自己発揮と自己抑制の調和のとれた折り合う心を育もうと実践してきた。日々の取組を振り返りながら、主体的に遊ぶ子どもの具体で、子どもの思いや感じていることを受け止め、丁寧に見取り、次の手立てを探りながら保育の改善を図ることで、めざす子ども像の「自己を発揮する子ども」「人とつながることを喜ぶ子ども」「主体的に遊ぶ子ども」の具現化につながっている。しかし、子ども一人ひとりの多様性を受け止めながら、幼児が主体的に遊ぶ中で、自己発揮や自己抑制をしている姿を見取り、環境構成や支援の在り方から考え、自己発揮と自己抑制の調和のとれた折り合う心を育む保育は、まだ十分とは言えない。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの多様性、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識して、個々の状況、困りや育ち、自己発揮している姿や自己抑制している姿を見取り、評価し伸ばす保育を通して、自ら主体的に物事に関わり、自ら考え、工夫することを楽しむ力、そしてそれを他者と協働的に行う力を育む保育をめざしたい。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも、今できること、子どもの学びを止めない保育をめざし、知恵を出し工夫して取り組まれている。 ・子どもの自己発揮や自己抑制について、日々の保育の中で子どもの喜びや葛藤として学び経験している。 ・幼稚園アンケート結果と意見から、本園の教育目標は達成されている。 ・新型コロナによる学級閉鎖という異例な状態の中、色々な形で、園児とのかかわり、ピンチはチャンスと言われるように、子どもたちも色々なことに気づき、学んでいる。

(2) 幼小連携・接続に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間交流計画の作成 ・通園区域内にある保幼小(中)学校への保育公開及び合同研修 ・接続カリキュラムの作成と検討 ・「親子で絵本！」の取組の定着 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前・事後の検討 ・公開保育及び合同研修の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」
--	---

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前・事後の検討 ・公開保育及び合同研修の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目 「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」…94.7% 「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」…100%
自	分析（成果と課題）

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の幼小連携の取組の計画は、リモートで開催し、作成することができたが、普通授業やスポーツフェスティバルの参観は、緊急事態宣言発出等により実施できなかった。 ・「親子で絵本！」を園全体で絵本貸出に取り組み、絵本読書ノートも活用していておおむね良好である。 ・ほとんどの家庭で親子読書を行っているが、取り組み方の情報交流することも必要である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染状況により、直接交流したり、リモート交流したりするなど、子どもの学びと成長の連続性を保障する取組を実施する。 ・「ほっこり子育て広場」や「保護者懇談会」などを活用して、「親子読書」の取り組み方についても話し合える場を保障する。

学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前・事後の検討 ・公開保育及び合同研修の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園は、小学校・中学校と同様に地域にある幼稚園として、さらに子どもの学びと育ちにつながっていくための交流を、三密を避けるなど対策を講じて、とりわけ教員同士の交流を積極的に進めてほしい。 ・小学校で使用している「100冊読書ノート」を公立幼稚園で活用していることは、読書生活を通して幼小がつながるよい取組である。 ・読書の秋ならではの親子読書を、コミュニケーションツールとしてさらに活用してほしい。

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の事前・事後の検討 ・公開保育及び合同研修の実施 ・「親子で絵本！」のノート活用度 ・アンケート項目 「子どもは“親子で絵本！”の取組を楽しんでいる」…95% 「幼稚園は、小中学校や地域、家庭とのつながりを大切にしている」…100%
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響が大きく、小学校との連携の取組はほとんどできなかった。 ・1月28日(金)に保幼小連携公開保育並びに研修会を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に関わって、公開保育並びに研修会を実施することができなかった。 ・3月初旬の二条城北小学校1年生とオンライン交流が新型コロナ学級閉鎖で中止になる。

自己評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児の入学する各小学校との幼小連絡会を完全実施するようにしたい。 ・「親子で絵本！」のノート活用100%になるよう工夫しながら改善したい。

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・「親子で絵本！」の取組は素晴らしい。 ・コロナ禍、幼小連携の取組が少なかったのが残念である。 ・小中の連携に関して、特に読聞かせの取組を幼小では「100冊読書ノート」を活用することによって、さらなる発展を達成している。ただ、この2年間、コロナの影響は否めず、年長組の保護者には、小中との連携に不安感をもつ向きもあるのではないか。 ・昔に比べ、本を手に取ることが少なくなっている。親子がともに絵本を読み聞かせる、いいチャンスだったのではないか。子どもが聞く立場だけでなく、子どもが読み、ペットなどに聞かせる。そのことにより、子どもがその物語にもっと気持ちを深めることになる。

(3) 預かり保育に関して

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の興味に応じた遊びをゆったりと安心して楽しく過ごせる環境構成を行う。 <p>*教育課程内の活動と連動した遊びや季節感のある活動内容を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材の活用

	(取組結果を検証する) 各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数 ・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。 ・アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」

中間評価

自己 評 価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数の増加 ・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り ・アンケート項目 「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」…100%

	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・「三密を避ける」「マスクの脱着」「手洗い・手指消毒の徹底」「消毒」など、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、取り組むことができた。 ・年少組が男児1名、女児2名の少人数学級であり、異年齢の子ども同士のかかわりや同性の子ども同士のかかわりを求めて預かり保育に参加している園児もいる。 ・預かり保育担当者と担任による子どもの様子や家庭との連携の情報共有をすることができた。

	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、活動内容や方法を見直すとともに、実施可能な取組を進めていく。

学校 関 係 者	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数 ・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り ・アンケート項目「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」

	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のもと、預かり保育利用者が増えている。引き続き各家庭でも三密を避ける、マスクの脱着、健康観察の徹底などの理解と協力をお願いしたい。 ・サッカーやヨガ、モールづくりなどの外部講師を招いた取組は、新型コロナウイルス感染拡大

評価	防止の観点から、安全・安心を損なわない無理のない範囲で実施の有無を決定してほしい。
----	---

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育参加人数の増加 ・預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り ・アンケート項目 <p>「子どもの興味に応じた遊びを、ゆったりと安心して楽しく過ごしている」…100%</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三密を避ける」「マスクの脱着」「手洗い・手指消毒の徹底」「消毒」など、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、取り組めた。 ・アンケート結果が100%であったことから、子ども主体・子どもが中心の活動を保障する場を提供することができた。 ・小規模園の多様な子どもとの出会いやかかわりが少ないという悩み解決の一助として、異年齢や同性の子ども同士のかかわりの場を保障することができた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染状況を考慮し、感染拡大防止対策を講じながら、活動内容や方法を吟味・見直すとともに、実施可能な新たな取組を進めていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の子ども達がかわってゆったり安心して遊べる預かり保育の良さが活かされている。 ・保護者の満足は見られるが、教職員の負担は過大なものになっていないか、気にかかる。 ・コロナ感染状況に負けないように、柔軟かつ、しなやかに取り組まれた。

(4) 子育ての支援に関して

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした教育相談の実施 ・幼稚園生活や保育内容説明会での先輩ママと触れ合い ・未就園児親子を対象とした、在園児や 地域の方と触れ合える取組 (七夕のつどい、運動会、クリスマスの集い、水遊びへの参加など) ・身長や体重を測り、親子で成長を喜び合う。
	(取組結果を検証する) 各種指標

中間評価

	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数：28回、参加人数のべ298人 ・教育相談件数：68回（4月～9月）
自己評	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月中旬からのほぼ毎月曜日と金曜日（10：00～11：30）は、子育てボランティアの協力により、0歳～3歳のひよっ子クラブや3歳未就園児親子のいちご組（月曜日から金曜日の9：00

評価	<p>～11：30)) を通して、子育て支援にかかる教育相談を継続して実施することができた。ひよっ子クラブ参加者は1日あたり平均10.6名、いちご組は、7名と少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日から金曜日の9：30～15：00（12：00～13：00を除く）の園庭開放は、降園時の短時間利用が多かった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、これまで通りホームページや地域へのチラシ・ポスターの配布、区役所のチラシ配架など、広報活動を継続して取り組んでいく。 ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組への参加が減少傾向にある点については、昨年度作製した公立幼稚園プロモーションビデオを活用したり、QRコードを上京はぐくみだよりなどに掲載したりして、情報発信する。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数や参加人数、教育相談件数 ・未就園児保護者に対するアンケート実施
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の早い時期から就学前施設探しをして、0歳から3歳の早い時期からの保育を希望する保護者が増えてきているので、2年保育の待賢幼稚園に3歳児親子が遊びに来ないのも一因と考えられる。 ・子育て支援の取組には、今後も子育て先輩ママとして、地域やOBが協力していきたい。

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組の回数：24回、参加人数のべ258人 ・教育相談件数：87回（10月～2月） <p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月から1月中旬までのひよっ子クラブや園庭開放の利用者は、前期と同様の参加状況であったが、オミクロン株のまん延に伴う対応のため、1月下旬から3月末まで毎月曜日と金曜日（10：00～11：30）のひよっ子クラブを中止に、また、月曜日から金曜日の9：30～15：00（12：00～13：00を除く）の園庭開放も、中止せざるを得なくなってしまった。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組については、これまで通りホームページや地域へのチラシ・ポスターの配布、区役所のチラシ配架など、広報活動を継続して取り組んでいく。 ・未就園児親子を対象とした子育て支援の取組への参加が減少傾向にある点については、昨年度作製した公立幼稚園プロモーションビデオを活用したり、QRコードを上京はぐくみだよりなどに掲載したりして、情報発信する。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひよっ子クラブは、保護者同士の交流や待賢幼稚園の温かい雰囲気を感じてもらい、子育ての不安や負担を軽減する役割を果たしている。 ・子育て支援のいちご組は、はな組入園に向けて、もう少し取組を増やしたほうがよい。 ・本園における子育て支援は特筆すべきものであるが、それが園児数増加に結び付いていない点は、憂慮すべきことである。 ・現代は、母親も働く時代、小さいときから、預かってもらうところを時間も長く、望んでいらっしゃる中、できる限り実践されている。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ひよっ子クラブが、未就園児親子にとって安心して過ごせる場所なので、地域内外にも発信していきたい。
--	---

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組

○学校運営協議会 3企画委員会の取組の検証

A. 親子の学びプロジェクト

- ・もちつき、絵本室の整備・貸出、子育て支援センターとしての活動等を行う。

B. からだ元気プロジェクト

- ・親子遠足・夏季プールの開設、運動会の競技、冬のマラソン等を行う。

C. 連携プロジェクト

- ・幼小交流、中学校チャレンジ体験受け入れ、待賢カーニバル等を行う。

○地域資源を活かした指導計画作成

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・交流の回数や地域の方々の声

- ・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」

中間評価

各種指標結果

- ・交流の回数や地域の方々の声…小学校のスポーツフェスティバル見学や中学校チャレンジ体験受け入れ、待賢カーニバルは、新型コロナウイルス感染拡大状況による緊急事態宣言の下、中止。

- ・アンケート項目

「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」…84.2%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・6月18日の「グリーングリーンデー」は、子ども達の育てた花や野菜の苗の保護者や地域の人々との交流を通じて、苗の受渡しや言葉のやり取り等、子ども達の学びの場となった。
- ・当初計画していた交流の取組が緊急事態宣言発出により中止になった取組の影響は大きく、アンケート結果でも「大変そう思う 10.5%」「そう思う 73.7%」「計 84.2%」と他の項目より著しくポイントが低い。

分析を踏まえた取組の改善

- ・地域行事への参加や協力体制の在り方については、三密を避けるなど、新型コロナウイルス感染防止対策も考慮し、地域とのつながりを大切にしながら、今後もPTAにおいて検討し、改善を図っていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・交流の回数や地域の方々の声

- ・アンケート項目 「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・2年保育の待賢幼稚園は、今後も園児の減少が大変懸念される。
- ・歴史的にも地域とのつながりの深い待賢幼稚園は、小中学校との連携・協力をさらに密にして、取組を進めていく必要がある。
- ・「待賢カーニバル」については、感染防止対策を講じて実施できるように働きかけ、地域とともにPTAのOBにも協力支援していきたい。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や地域の方々の声 ・アンケート項目 <p>「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」…60%</p>
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目「子どもは幼稚園の取組で地域や地域の方に親しみをもっている」が、前期84.2%から、今回60%に減少している。コロナ禍のもと、地域や地域の方に接し関わりつながる機会が激減したことが大きな要因であると考えられる。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接かかわる機会をもつことが難しい場合、ICT機器を活用して地域の方とつながる取組を進めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍、地域行事や取組のほとんどが中止になり、地域の方々との交流がなく、子どもたちにとって貴重な経験ができない状況があり、できる範囲での再開を望む。 ・コロナの影響が全てである。地域の行う幼老交流や地域まつり（待賢カーニバル）がすべて中止となり、地域への愛着をもつ契機が失われた。 ・核家族化の今、年老いた方と接することは、とても大切で、老人の方も毎年3月お雛祭りを楽しみにされている。コロナが収まって、早く行事ができる事を念じるばかりである。 ・地域とのかかわりが本当に少なくなった。今後さらに幼稚園との連携をとりたい。

(6) 教職員の働き方改革について

	重点目標
	<ul style="list-style-type: none"> ・心身ともに健康で、安定・充実した仕事ができるように、個々にそして組織的に工夫して、働き方改革を推進する。
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デー（毎水曜日）と18時までの電話応対時間の徹底 ・業務共有ホワイトボードを活用し、校務支援員やボランティアと連携して業務を遂行する。 ・年休取得日数を前年度より増やす。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」 ・年休取得日数「1人あたり7日以上」

中間評価

	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間「1月あたり平均30時間以内」…「1月あたり平均20.7時間」 ・年休取得日数「1人あたり7日以上」…「1人あたり平均10日」
自己評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の「量」的発想ではなく、「何のための取組か」という「本質」に立ち返って、取組を見直し実施してきたことは、意義深い。 ・教職員の働き方改革に向けて、意識変革と具体的な取組により、各種指標結果が良好で、教職員の負担軽減と時間外勤務時間縮減につながっている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、緊急事態宣言下で中止になった行事や今後行う

	<p>行事について、復活や前倒しなど、子ども達の豊かな学びと健やかな成長のために、柔軟に対応実施していく。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間 「1月あたり平均 30 時間以内」 ・年休取得日数 「1人あたり 12 日以上」
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に教員採用試験倍率が低くなっている。教員を志す人が少なくなっている。その大きな要因が、教員の長時間労働や仕事量の多さ、精神的ストレス量などがあげられる。「働き方改革」は、急務である。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の時間外勤務時間 「1月あたり平均 30 時間以内」 … 「1月あたり平均 27.7 時間」 ・年休取得日数 「1人あたり 12 日以上」 … 「1人あたり平均 15.7 日」
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の「量」的発想ではなく、「何のための取組か」という「本質」に立ち返って、取組を見直し実施してきた。 ・教職員の働き方改革に向けて、意識変革と具体的な取組により、各種指標結果が良好で、教職員の負担軽減と時間外勤務時間縮減につながっている。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組の「量」ではなく、「何のための取組か」という「本質」に立ち返って、取組を見直し実施していく。 ・新型コロナウイルス感染状況を考慮しながら、行事について、復活や前倒しなど、子ども達の豊かな学びと健やかな成長のために、柔軟に対応実施していく。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の作った飾りが減り子どもたちの絵や作品が飾られ、子どもたちののびのびした楽しい雰囲気が伝わってくる。 ・コロナ禍、今できること、子どもの学びを止めない取組をと教職員の思いや熱意が伝わってくる。 ・子育て世代の孤立と密接な関係があると思われるが、子育て相談等で教職員の負担が増大せざるを得ない現状を考えても教職員の健康は重視すべきであり、「働き方改革」は、推進されるべきである。 ・人手不足の中、求められることが多く、ついつい頑張りすぎてしまわれる。教職員の方々が疲れると、きっと子ども達に笑顔が見せられなくなることが懸念される。いろんな方法、やり方で、働き方改革が推進されることを望む。 ・地域の方々のボランティアの力を借りるなど、私たち地域の者ももっと考えないといけない。 ・大変な状況の中、教職員の方々の取組に頭が下がり、少しでも協力していきたい。